

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171100177
法人名	株式会社ライフサポートNEO
事業所名	神埼紀水苑
訪問調査日	2007年11月12日
評価確定日	2008年1月30日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100177		
法人名	(株)ライフサポートNEO		
事業所名	グループホーム神埼紀水苑		
所在地	佐賀県神埼市神埼町鶴1342-1 (電話) 0952-53-8905		

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月12日	評価確定日	平成20年1月30日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 平屋建て造り
------	-------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 900 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.1 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋本病院/中尾胃腸科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の幹線道路沿いに、様々な種類の季節の花に囲まれた木造平屋建てのぬくもりがある建物が「神埼紀水苑」である。建物内部は機能的で快適な空間を持っている。同一敷地内に宅老所も隣接し、穏やかな時間が流れていることが実感できる。職員の一人一人は、高齢者の一人一人に向き合い、利用者のペースに合わせて誠実に高齢者のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価に基づき改善課題について検討はされているようであるが、職員全員が評価の意義を理解し、改善に向けた計画的な取り組みまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と一部の職員で取り組まれているようで、職員全体で点検作業をすることがサービスの質の向上につながるという評価の意義の共通認識が期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、苑の活動報告、災害時の協力や、地域行事の参加など意見交換がなされている。参加者からの苑への意見や提案などは職員で話し合い検討されている。運営推進会議のメンバーに地域包括センターの職員が入っている他、月1回「ケアネット神埼」の会で連携を取っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苑便りや日常の写真を毎月1回出している他、面会時や電話で随時報告をしている。玄関の目に付きやすいカウンターに「意見箱」を設置しているほか、面会時などにも意見や苦情を聞く体制は出来ていて家族との関係性はよい。出された意見や苦情は申し送り職員に周知徹底している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議を通じて、苑内行事、消防訓練の協力依頼などを呼びかけている。徐々に理解や協力が得られつつある。地区の清掃活動等にも参加して地域の人々と交流する機会を持っている。他の地域行事にも参加するよう取り組んでいる。中学生の職場体験を受け入れ、高齢者とのふれあいがなされている。敬老会には地区の高齢者の参加や、ボランティアの協力も得られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の基本理念「利用者様の身になり、言葉に耳を傾け、ともに歩む」の基に利用者、家族、地域の方々を対象にサービス提供を努力しようという取り組みはされているが地域密着型サービスとして事業所独自の理念にはなっていない。	<input type="radio"/>	母体組織の基本理念に加え、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域との関係性を重視した具体的な自分たちの理念を作り上げる取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用面接時に伝えたり、月1回の調整会議で唱和したりして理念の共有に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	月1回の調整会議や、採用面接時に加え、日々のミーティングや申し送りなどの場面でも理念に触れる機会を持ち一層の理念の反映を期待したい。
留まらず					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回運営推進会議を開催し、苑内行事、消防訓練の協力依頼などを呼びかけている。徐々に理解や協力が得られつつある。地区の清掃活動等にも参加して地域の人々と交流する機会を持っている。他の地域行事にも参加するよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に基づき改善に向けた検討はされているが、職員全員が評価の意義を理解し、改善に向けた具体的な取り組みをするまでには至っていない。	<input type="radio"/>	改善計画書の作成など、改善に向けた具体的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は月1回開催し、苑の活動報告、災害時の協力や地域行事の参加など意見交換がなされている。参加者からの苑への意見や提案などは職員で話し合い検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員が入っている他、月1回他の会合を通じ連携が取れている。また、困ったときは地域包括支援センターが相談相手となっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	苑便りや日常の写真を月1回請求書とともに出している。その他面会時や電話で随時報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の目に付きやすいカウンターに「意見箱」が設置しており、面会時などにも意見や苦情を聞く体制は出来ており家族との関係性はよい。出された意見や苦情は職員間で共有されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	短期間に常勤職員の離職や管理者の病休、計画作成担当者の異動などが重なり、法人間の応援体制で調整している面が見受けられる。	○	やむを得ない事情が続き、職員の交代が見られたが、異動や離職を最小限に抑え、利用者や家族の不安や不満に配慮した一層の工夫や検討を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として月1回の調整会議の場が研修の機会となっている。外部研修として事業グループの勉強会に管理者、および職員が出席している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のネットワークの連絡会に参加している。他に事業グループの施設交流や勉強会で発表の機会があり、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学と面談を行い、これまでの生活の様子などの情報を得てサービス利用を開始している。	○	本人や職員がサービスの場に徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていけるような取り組みとして、スタッフが自宅に出向いたり、やむを得ずすぐにサービスを利用される場合には、ご家族やそれまでかかわっていた関係者に来てもらうなど段階的な支援の工夫も期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬意をもって接しており、理念の「ともに」の元と一緒に行動し、喜びを感じたり、教えてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろのかかわりの中で表情や言葉などから本人の真意を汲み取るようにしている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろのかかわりの中での気づきを基に家族と話し合いながらスタッフ全員で意見を出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直し時期以外でも、状態の変化があった場合にはそのつどスタッフで話し合い計画を見直し、家族や関係者にも説明を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師と協働し、入居者に対するかかりつけ医への受診介助や外出・外泊には柔軟に対応している。重度化や終末期の対応指針も整備している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医で医療を受けられるよう家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらったりしている。複数の医療機関と協力関係を結んでいて、緊急時でも対応可能な体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する介護・看とりの指針を定め、重要事項説明書にも明記し契約時に同意を得ている。具体的な対応については、職員、家族・関係者、医師と十分に話し合い方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として、誇りやプライバシーを損ねることがないように徹底している。個人情報の保護についても苑だよりは家族向けと地域向けに配慮して作成したりして徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、起床時間、就寝時間、朝食時間など一人一人のペースに合わせている。食事の準備や洗濯物たたみなどできることは時間がかかっても言葉かけをしながら見守るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒にテーブルで同じ食事をし、ゆっくりと会話を楽しみ時間をかけた支援がされている。食材切り、皮むき、テーブルふきなどの食事の準備や食器洗い、テーブル拭き、トレイ拭きなどの後片付けも職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後本人の希望に合わせた入浴がなされている。順番も希望に合わせている。夜間入浴の希望者は現在おられないが、希望があれば対応することとしており、入浴剤を使用するなど楽しく入浴できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーめくりや、食事のときの挨拶、外来者への挨拶を担当する人などの役割がある。散歩や買い物など気晴らしや楽しみごともできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや散歩、買い物などできるだけ本人の希望に添いながら戸外へ出る機会を作っている。	○	車いす利用者の外出機会の確保の為、近々リフト車を購入予定である。これによる外出支援の一層の充実が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室の窓にはカギはかけず、自由に出入りができるようになっている。外出の際は職員同士連絡を取り合い安全面に配慮しながらさりげなくフォローをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら、避難訓練を年2回実施している。運営推進会議で地域の方にも訓練の参加協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定で栄養状態をチェックしている。水分摂取については、毎食後、午前午後のおやつ時、入浴後、外出後などこまめに摂取できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁面には利用者と職員で作った季節の飾り付けがされている。玄関やアプローチは季節の花や鉢物が置かれて季節感や家庭的な雰囲気が感じられる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への小ダンスなどの持ち込みは自由にされている。家族の写真や飾り物があり、中には遺影などもかざられている。窓を開けて換気も十分にされている。		